

## ご存知ですか？



以前は、どこの学校にも設置されていたものです。学校によっては気象委員会があり、子どもたちが、毎日、気温や湿度、天候を記録していたような記憶があります。しかし、現在は、設置されている学校も少なくなりました。

この名前を「百葉箱（ひゃくようばこ）」と言います。正式な呼び名は「ひゃくようそう」というそうです。なぜ、ひゃくようそうという名前が付いたのかというと、平安時代に、雨が降り込むのを防いで、風だけが部屋に入るようにするため「百葉窓（ひゃくようそう）」というものがあつたそうです。



現在のガラリ

現在は、金属製となり「ガラリ」と呼ばれているものです。百葉窓に周りを囲まれているためこの名前が付けられました。



百葉箱は、気温を正確に測るために作られたもので、地面から1.2mから1.5mの高さに設置され、直射日光の影響を受けないよう真っ白なガラリっています。また、中を見るために開く扉も北側に付けられています。

百葉箱の中には、温度計と乾湿計が入っています。気圧計が入っているものもあります。最近では、デジタル式の温度計や気圧計のものがあります。

加太小学校の百葉箱の中には、温度計が入っており、4年生が理科の勉強で活用しています。百葉箱が残っている学校は、少なくなっています。加太小学校の財産として大切にしていきたいものです。